

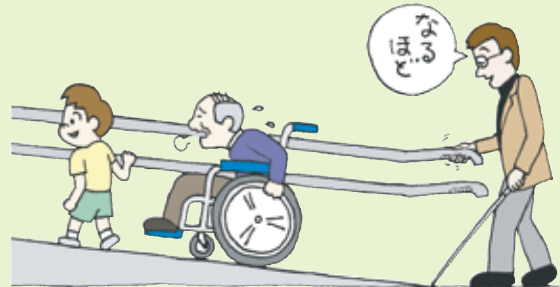
バリアフリー体験歩道 案内図



誰もが安心して利用できる安全な歩道空間をつくるためには、誘導ブロックの並べ方をはじめ、様々な工夫や配慮が必要です。この「バリアフリー体験歩道」での体験を通じて考えてみましょう。

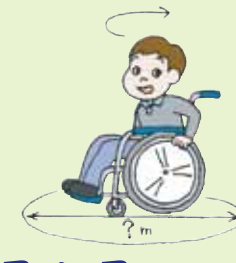
振動の少ない舗装材

車いすやベビーカーが通行する時の振動が少ない舗装材です。



スロープ(坂路)

車いすを使用している人にとって、スロープは大きな障害です。スロープの勾配や手すりにも配慮が必要です。



車いすの回転スペース

歩道から沿道の施設へ通じる通路やトイレなどでは、車いすが自由に回転できる広さが必要です。



誘導ブロックとマンホール

マンホールなどを避けて誘導ブロックを設置する時には、視覚に障害のある人が進行方向に沿ってスムーズに歩けるような並べ方を考える必要があります。

交差点の誘導ブロック

交差点部では、視覚に障害のある人が迷わないような誘導ブロックの並べ方を考える必要があります。



歩道と車道の段差

車いすを使用している人にとってはわずかな段差でも障害となりますが、視覚に障害のある人にとってはサインとなります。

バス停

バス停では、バスの乗車位置や点字案内板への誘導方法を考える必要があります。



グレーチング(側溝のふた)

車いすの車輪や杖などが挟まらないような工夫がしてあります。



舗装材の輝度比

弱視の人にとっては、黄色い誘導ブロックが頼りです。誘導ブロックが見えやすいような色彩の舗装にする必要があります。



透水性舗装

歩道の舗装は水平にすると通行しやすくなりますが、従来の舗装では「水たまり」ができてやすくなります。水が浸み込みやすい舗装にする必要があります。



スタート

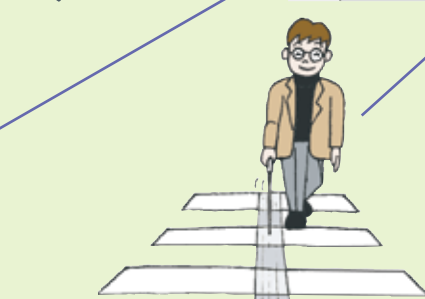
ユニバーサルデザインベンチ

車いすのためのスペースを確保し、「立ち上がり」や「座り」の動作の支えになる手すりが付いています。



視覚障害者用横断帯(エスコートライン)

視覚に障害のある人が横断歩道に沿って車道を安全に渡れるように、誘導ブロックと同様の突起を設けてあります。



斜めの誘導ブロック

横断歩道への進行方向を間違えないようにするため、手前の区間で斜めに誘導ブロックを設置する場合があります。



車両乗り入れ部

車が入り出す乗り入れ部の傾斜は、歩道を通行する人にとっては障害となります。

